

令和7年度 第1回志摩市総合計画審議会 議事概要

日 時 令和7年5月29日（木）
午後1時30分～午後3時30分
場 所 志摩市立図書館 2階ホール

出席者（順不同・敬称略）

(1) 審議会委員(16名)

齋藤平（会長）、柴原伸行（副会長）、南二三四、前田正典、山形美弥子、井上恵子、田邊善郎、山川範恭、向井英仁、中井明香、濱口真理子、塩本智幸、松尾誠祐、高岸三枝、柘植規江、東知恵

(2) 事務局(4名)政策推進部 総合政策課 堀尾清策、坂井陽、米奥宏規、大形翔

傍聴者…3名

事項書1. あいさつ

【事務局】

皆様方には、大変お忙しい中、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。
私は、事務局を務めます総合政策課の坂井と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。
それでは、開会にあたりまして、橋爪市長よりご挨拶申し上げます。

【橋爪市長】

皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました橋爪でございます。まずは皆さんにおかれましては、第1回の志摩市総合計画審議会にご参加をいただきまして、本当にご多忙中のところ、ありがとうございます。そして平素は、皆さんそれぞれのお立場で志摩市の発展のために、大変ご尽力いただいておりますことをこの場をお借りしてお礼申し上げたいと思います。ありがとうございます。

平成28年に、第二次志摩市総合計画を策定し、住む人を支え、来る人を迎える豊かな里と海のまちという理想を目指しながら施策を志摩市で進めさせていただいているところでありますが、この計画が令和7年度で満了するということで、このたび、令和8年度をスタートとして、新たな総合計画の策定をしたいと思っております。

平成から令和へと時代が変わり、コロナ禍、G7交通大臣会合、市制20周年を経て、そして本年は全国豊かな海づくり大会の開催ということで、本当に様々な事業を展開してまいりました。経済の部分でも、本当に目まぐるしく変化をしている状況であるということを、我々ひしひしと感じているところでありますが、やはり、この総合計画というものは、ある意味、志摩市の将来像の教科書を作るような、そんな計画ということになります。

ぜひ、本日ご参加の皆さんにおかれましては、それぞれの立場での高い知見とご意見をいただきながら、志摩市の未来をどのような形で描いていけるかという根幹を作っていくために、様々、ご意見をいただければと心から願っております。

市の職員の皆さんには、訓示でそれぞれの場面ごとでお話をしているのですが、この世の中は非常にスピード感がある変化を起こしています。目まぐるしく変化しているこの時代に、我々

行政の人間は、「どう時代に付いていくか」ではなく、「どうその先頭を走るか」ということを議論しながら、業務に取り組んでいます。しっかりとそのような部分を我々、心に刻みながら、皆さんのご意見をいただいた中で、まとめ上げた総合計画に基づいて真摯に取り組みたいと思っておりますので、ぜひ、この場を、皆さんのはばらしい時間にしていただければ幸いかと思います、よろしくお願ひいたします。

この審議会においては、非常にたくさんの時間を皆さんに頂戴するかもしれません、ぜひご理解ご協力のほどよろしくお願ひいたしまして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

【事務局】

ありがとうございました。続きまして、委員の皆様へ審議会委員の委嘱状の交付となります。本来であれば、お1人ずつ、市長から手交させていただくところではございますが、お時間の都合上、お手元の配付をもって代えさせていただきたいと思います。大変恐縮ですがよろしくお願ひいたします。

次に報告事項になります。本日の審議会につきましては、15名の委員のご出席がありますので、志摩市総合計画条例第11条第3項、審議会は委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができないという規定の要件を満たしておりますので、本会議は成立していますことをご報告いたします。

また、本会議の進行になりますが、条例第11条第2項におきまして会長が審議会の会議の議長となると、規定の変更がされておりますが、会長につきましては、お手元の事項書にある議事(1)の会長、副会長の選出までは、事務局の方で進行させていただきます。

まず会長、副会長選出の前に、委員の皆様から自己紹介をお願いできればと思います。恐れ入りますが手元にある審議会名簿の順番にお願いしたいと思います。

[委員15名の自己紹介]

[事務局の自己紹介]

事項書2. 議事(1)会長・副会長の選出について

【事務局】

それでは議事事項の議事「(1)会長、副会長の選出について」に移らせていただきます。

会長・副会長の選出ですが、条例第10条第1項の審議会には会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定めるというふうに規定されていますので、委員の皆様からご推薦等をお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

[会長の選出について、立候補・推薦を求める]

【向井委員】

前回の審議会でもお願いしておりましたけれども、会長には皇学館大学の齋藤先生、それと、副会長に、自治会連合会の柴原さんに、お願いできればと考えております。いかがでしょうか。

【事務局】

皆さんいかがでしょう。よろしければ拍手をお願いします。

[拍手(異議なし)全員あり]

[齋藤委員を会長、柴原委員を副会長として選出]

【事務局】

それでは、橋爪市長より諮問書をお渡します。会長に選出された齋藤先生の到着が遅れておりますので、副会長に代理として、受け取っていただければと思います。

【橋爪市長】

[橋爪市長から諮詢]

※公務の都合により橋爪市長退席

【事務局】

条例第10条第3項に、副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときはその職務を代理する規定されておりますので、柴原副会長にこれから議事の進行はお願いしたいと思いますが、一言ご挨拶をいただけますでしょうか。

[柴原副会長挨拶]

【事務局】

それでは進行の方、よろしくお願ひいたします。

【柴原副会長】

それでは、これからここからの議事については、斎藤会長が来られるまで副会長の柴原が行います。事項書「(2) 新たな総合計画の策定基本方針について」、事務局から説明をお願いします。

事項書2. 議事(2) 新たな総合計画の策定基本方針について

《総合計画について》

[事務局説明]

《資料1 新たな総合計画の策定基本方針》

《資料2 志摩市総合計画審議会 開催予定》

※参考資料として、第2次志摩市総合計画・後期基本計画冊子を使用し説明

【柴原副会長】

ありがとうございました。非常に広範囲にわたる資料ですので、なかなかご質問されるもの大変かと思いますが、これから志摩市の未来を図っていく大事な総合計画ですので、忌憚ないご意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願ひします。

説明を聞いていて、なかなか大変な状況だと思います。「持続可能」ということも言われていましたが、志摩市については、大王町と浜島町が高齢化率50%超えています。志摩市全体で約40%が65歳以上の人口です。出生数も、広報や市のホームページ見ると、150人、120人といって、子どももどんどん減っています。私は浜島町の自治会連合会ですが、浜島中学校は令和9年度で閉校になって、文岡中学校に行くと決まっています。どんどん学校も減ってくると思います。いろいろ若い保護者の方と話をしてみると、私たちの世代とは考え方全然違います。閉校になるので、閉校式をやりたいと思っておりまして、昨日も会議をしましたが、若い人たちの考え方、また、中学生の考え方も全然違っています。今日は、校長会の代表者もいらっしゃいますので、学校側から見て、総合計画へのご意見がありましたらお願ひします。

【高岸委員】

先ほど、計画策定の考え方の4つの視点の4番目のところで、わかりやすさの視点をご提案いただいたかと思います。実際にこの冊子をわかりやすくしていただくということですかね。すごいことだなと思います。ただ、子どもたちに私たちにしても、ポンチ絵のような感じの絵やフローチャートのようなものがあると、一目瞭然でありがたいのかなと直感的に思いました。その辺りのわかりやすさというのは、どう考えていますか。

【事務局】

計画を市民の皆さんに知っていただくという前提に立ち返って、内容のわかりやすさの見直

しや、ボリュームも大きいと思いますので、全体のページ数を減らしていきたいと考えています。また、わかりやすく内容を要約したような、見開きで4ページぐらいの概要版みたいなものも作成させていただくことで、市民の皆様に見ていただけるということも考えております。

【柴原副会長】

東京オリンピックではピクトグラムという絵を活用していましたが、最近、学習方法も視覚的な表現に変わってきていると言います。視覚で勉強すると印象に残るようですので、そこら辺も含んで、例えば概要を作ってもらうときには、そういう新しい視点も入れてください。それから、こういうものを作るのときに、「誰に見てもらうのか」ということがあります。私は昔市役所おりましたけれども、広報を作るときは、中学生に読んでもらえる広報を作れとよく言われていました。今の広報はそうなっていません。若い世代に見てもらえるものにしてください。

【事務局】

ありがとうございます。そのような形で進めさせていただきます。

【塩本委員】

先ほどの委員の話にもありました、アプローチシートや、ひと目でアウトラインがわかるようなポンチ絵とか、市民の皆さんにわかつていただきやすいものを検討していただければなと思います。

また、進行のことについて、今日は、基本構想の検討ということですが、いろんな提言ができるように、過去20年の内容を全部まとめてきたものがあるのですけれど、これを出させていただくタイミングというのはいつになりますか。

【事務局】

今日は、初回ということで、委員の皆さんも急に意見を出すことは難しいところもあると思いますので、その辺も含めて、ご意見シートという1枚紙の資料をお手元に用意させていただいております。審議会の会議中に発言しそびれたとか、そういった方もいらっしゃるかもしれませんし、ご欠席の方もあろうかと思いますので、後日でもご意見を出していただけるようにさせていただきます。もし、今日、この時間の中だけで、発言が難しいというようなことであれば、ご意見シートを通じて提出いただければと思います。

【塩本委員】

そこにお願い的なことは、全部書かせていただくということで、よろしいですね。

【事務局】

はい。もちろんですが、今日の会議中に発言いただいても結構です。

【塩本委員】

資料が膨大にありますし、これをこの場で出すのは無理なので、今後、徐々に出させていただきたいと思います。あともう1点、お願いなのですが、もちろん外部に公開しないという前提で、資料を事前に電子データでいただくことはできますでしょうか。

【事務局】

今回、紙ベースで送付しましたけれども、もし電子データをご希望の方がいらっしゃれば、もちろん対応することは可能です。

【塩本委員】

ぜひご検討いただければと思います。普段、仕事で自宅にいないことが多く、資料を受け取れるかどうか心配もあります。可能であればお願いします。

【事務局】

紙ベースの配布もさせていただきますが、もし電子データでの事前送付を希望されるようでしたら、事務局まで申し出ていただければ、対応させていただきますのでよろしくお願ひします。

【柴原副会長】

今、国際交流協会の塩本委員から話が出て、ふと思ったのですが、1ページの計画策定の考え方には4つの視点があるのですけど、インバウンド、外国人のことが全然のっていません。どう考えられますか。浜島の旅館にいる従業員のほとんどが外国の方です。それから、志摩市はインバウンドの旅行者が少ないっていう情報も聞きますが、その辺について何かありませんか。

【塩本委員】

在住外国人も含めてインバウンドという対象と捉えれば、その部分はアンケート結果の資料に記載されていました。今の副会長のお話ですが、以前、宿泊施設等から、外国から従業員を受け入れるときにどうしたらしいのだろうかとか、相談を受けました。国際交流協会の視点で言いますと、彼らとの意思の疎通を図る1つの手法として、「これから交流してください」とお話をしました。なかなか難しいことではあるのですが、身近なことから進めていくというのが大事かなと思うのです。

その中の1つに、例えば、雇用する側とこれから雇用される側の中で、意思疎通を図るためにチームビルディングという方法があります。1つのチームとして共感する部分を高めていく。こういったことが企業でよく使われます。そういうことも含めて考えていただければと思います。もちろん国際交流協会としては、これからも前向きに取り組んでいく方向であります。

【柴原副会長】

ありがとうございます。それでは他に何かありますでしょうか。なければまた最後に、全体を含めての質問の機会を設けたいと思いますので、次の議事に移ります。よろしいですか。

事項書（3）市民アンケート等の結果について、説明をお願いします。

事項書2. 議事（3）市民アンケート等の結果について

《市民アンケートについて》

[事務局説明]

《**資料3**志摩市まちづくりアンケート 調査結果分析》

《**資料4**志摩市の未来を一緒に考えよう！中学生アンケート 調査結果分析》

《**資料5**新たな志摩市総合計画策定に係る高校生ワークショップ 結果報告書》

《**資料6**新たな総合計画策定に向けた若手職員ワークショップ》

【事務局】

事務局から議題の（3）市民アンケート等の結果について説明させていただいたところですが、今、ここで皇学館大学の斎藤先生がお見えになりましたのでご報告します。

【柴原副会長】

先生と相談しまして、この議題が終わりましたら引継ぐこととしましたので、この件は私が進行します。ただ今、事務局からご説明がありました件につきまして、何かご質問があればよろしくお願ひいたします。

市民アンケート、中学生アンケートの結果を見ると、志摩市の自然、景観という市のいいところと食を生かした、持続的なまちづくりをして欲しいという声がたくさん報告されているのですけれど、環境省の柘植委員、こちらへ来られて、志摩市について思うところがありましたら、

ご発言お願いします。

【柘植委員】

私は、伊勢志摩に来て 2 年目になるのですけれども、志摩市の皆さん、自然と暮らされていると言いますか、人との関わり合いがベースになって、皆さん、暮らしていらっしゃるのだなっていうのをすごく感じております。

伊勢志摩国立公園は、来年度 80 周年を迎えるところで、ちょうど、私どもも、国立公園のビジョンや行動計画を策定しようとしています。ビジョンについては、昨年度、伊勢志摩に関わりのある 30 代くらいの若い方たちに集まつていただいて、ワークショップをしました。そこでもいろんな話が出て、今回のアンケートに出ていたことと近いような話があつて、やっぱり、人を大事にしていこう、次につなげていこうというようなことや、まちでの関わりを大事にしようというようなことが話に出ました。

今年度は、そのビジョンの実現を目指すプログラム、行動計画を作っていくのですけれどもこちらの議論も、ちょっと参考にさせていただきながら進めていきたいなと思ったところです。

【柴原副会長】

また、市にも情報共有してもらいまして、お互いがいい計画にできるよう、協力をお願いいたします。

もう 1 点気になるのが、医療体制のことです。民生委員の山形さん、高齢者の方からの意見はどうですか。

【山形委員】

市内には大きな病院が志摩病院しかないということと、病院へ行くのが難しいことがあります。歩いていくこともできない。最近は、オンデマンドの交通手段をやってたりするようですが、全体的に、病院に行きたいけど、行くことができないという高齢の方が多くなってきていると思います。

【柴原副会長】

以前から磯部町はハッスル号、阿児町については志島循環バスが回っております、一昨年に大王と志摩地域でオンデマンド交通を動かしています。阿児についても昨年度に動かしています。浜島についても、今年 11 月ごろに試行運行をするということです。市では、各町において通院や買い物ができるような計画をしているということでよかったです。

【事務局】

その通りです。今まで、路線バスがある中で、路線バスも生かしながら、市の公共交通をどのように構築するかが課題になっていました。その中で、まだ実証段階ですが、志摩、大王、阿児においては A I を活用したオンデマンドのコミュニティバスというような形で取り組んでいるところです。また今年度は、浜島においても進めていきたいと考えております。高齢者の中からは、なかなか路線バスに乗るのが難しい、路線バスの本数が少ないといった意見もあります。そういうところで、路線バスを補完するような形で、市の公共交通というところを両輪で進めていく必要があるというところがあります。また皆さんぜひ乗つていただいて、ご意見いただきたいというように考えておりますので、引き続きよろしくお願ひします。

【柴原副会長】

他に何かご意見がありますか。私からも 1 つ、情報をどのように受け取るかということで、昨年のまちづくりアンケートで、市民が一番情報を得ているのは、広報しまと自治会が行う回覧文書です。これらの割合が高かったと思います。S N S については、非常に受け手が少ないよう

ですが、今後、SNSの情報発信について、高齢者の方を含めて、市はどのように進めていくつもりですか。

【事務局】

情報発信に関しては、市民の皆様にわかりやすく適切に届けられるよう進めていかなければならぬと思っております。広報しまが一番多いということで、自治会に加入されている方にに関しては自治会を通じて、また自治会に加入されていない方については、身近なコンビニエンスストアやショッピングセンターといった店舗に設置させていただき、身近なところで受け取れるようにしております。SNSに関しても、今一番、私たちが力を入れていきたいと考えているのが、志摩市公式LINEアカウントです。現在、5,000人以上の方に登録していただいている。LINEについては、市役所からプッシュ型で情報をお送りすることができます。また、必要な情報についても、個人の希望に合わせて受け取りの設定もできますし、プッシュで来るので、登録さえしていただければ、情報を受け取ることができます。市としては、そういうようなSNSを活用して、しっかりと情報を届けるように進めていきたいと考えております。様々な方法で情報を発信し、適切に届けるよう、今後も検討していきたいと考えています。

【柴原副会長】

他にもございませんか。食については、志摩市といいますと、伊勢エビやアワビがありますが、外湾漁協の田邊委員、その辺はどうでしょうか。

【田邊委員】

伊勢エビもアワビもサザエも、今までこの志摩の特産品と言われたようなものが激減をしていて、なかなか提供するにも困難な状況です。まちづくりとか、子どもたちの未来という話の中で、10年、15年ぐらい前までは、子どもたちに「漁業はどうだろうか」「結構真剣にやつたらお金になるぞ」というような話もしながら、小学校・中学校にお話をしに行ったこともあるのですが、もう今は、冗談でもそんなこと言えない状況になっています。毎年、水産高校の生徒や、小学生、中学生には、和具の漁港で水揚げの様子とか、水揚げした魚がどのような形で豊洲へ行つて、一般の家庭に届くとかっていうような流通の部分まで、勉強していただくのですが、今、漁業は、非常に厳しい状況となっております。

【柴原副会長】

私たちの小さいときには、カツオがたくさん魚市場にあるのを見かけましたし、アワビとか伊勢エビも潜って取ったりしていました。今、堤防に見にいきますと、伊勢エビもありませんし、サザエもないというような状況のようで、私も気になってます。

それでは、先生が来られましたので、次からの議題（4）につきましては、会長に代わりたいと思います。ご協力ありがとうございました。

【斎藤会長】

皇学館大学の斎藤でございます。ここからは、私の方で進めさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。それでは事項書（4）、基本構想の検討について、事務局から説明をお願いします。

事項書2. 議事（4）基本構想の検討について

《基本構想について》

[事務局説明]

《資料7 基本構想の検討について》

【斎藤会長】

ただいま事務局から説明をいただきました。これについてご意見ご質問などありましたら、ご発言いただければと思います。

総合計画を立てていく中で一番の柱になる要素で、これを今後、基本構想としてまとめていくことになります。その中で、どうすれば暮らしやすい志摩市になるのかということについて、それぞれのお立場でお考えがあろうかと思いますので、ぜひその辺りを、ご意見お聞かせいただければと思います。

私は、会議の取りまとめ役をさせていただく機会が多いのですけれども、すべての方に一言ずつおっしゃっていただくように努めています。今日の会議の感想でも結構ですし、進め方についてのご意見でも構いませんので、ご意見いただければと思います。南委員から、一言ずつお願ひいたします。

【南委員】

私たちの若いときは、みんな親と同居して仲良くしていたのが、今は核家族になってしまって、若い人とお年寄りとの差が随分あるんじゃないかなと思います。ですから年を取った私たちは、なるべく若い人のことを理解して寄り添うようにして、また若い人は、そういうことを頭に置いて仲良くしていただいて、家庭が明るくいくような生活に戻れたらいいなとそんなようにいつも思います。

私は今、志摩病院へ週1回ボランティアに行ってています。お年寄りの方は若いお嫁さんに連れてきてもらうのですけども、見た感じで、この人達は仲が良いな、この家庭はもう嫌々親を連れてきているのだなとか、すごくわかります。まず、第一に家庭が明るく、仲良く暮らしていることが、生活の第一歩じゃないかなと、いつもそのように思っています。

【前田委員】

志摩市の地域住民の皆様が困っている様々な問題というのは、日々、社会福祉協議会へも情報が入ってきています。

先ほど、時代の流れの話をしていましたけれど、時代のスピード感が全然違うということで、法令遵守とかコンプライアンスとか、もう当たり前の時代になっています。それをどのようにみんなが受けとめて、生活していくかということだと思っています。

志摩市の人口が、今後、どういうように推移していくのか。本当に我々が、若い頃に思っていた感覚と違って、人口減少が本当に進んでいるということなので、大変危惧します。事実として、若い人たちが、地域に戻ってこない。なぜ、戻ってこられないのか、産業構造もありますけれど、そういったところから考えないといけない。地域の総合計画を作っていくときに、例えば、どういう企業を呼び込むとか、ということもあるかと思うのですけど、それもなかなか難しい時代です。昔であれば、製造業のシャープさんとか、その辺の大手のところの下請けが志摩市にいっぱいありました。私が従前勤めていたところでも、日本だけじゃなくて中国にシフトして、そこからまた、違う国へシフトしているっていうような状況ですし、本当に企業ありきで人口が集まるかどうかっていうことは根幹だと思うので、その辺の対策をどういうようにしていくかっていうのが一番な重要課題かなと思っています。

隣の山形委員も民生委員としていろいろと地域の声を聞いてもらっているわけですが、本当に「地域の困りごと」イコール「市の進むべき方向」だと思います。その辺を拾い上げる方法がどういうようなやり方が一番いいのかということを今後考えていかないといけないと思います。

市の予算が少ないのでわかりますが、その限られた予算の中で、SDGsで「誰一人取り残さない」と言っていますけど、本当にそうなのですかというと、それは厳しいところがあると思い

ます。その辺のところも含めて検討していただけたらと思っています。

【山形委員】

今日も、民生委員として、また自治会として、夜に座談会を開催します。その中では、交通機関が不便というのと、買い物弱者、近くにお店がないということで、移動販売車にきてもらっています。JAでも毎月朝市をさせてもらって、住民のお年寄りの人たちに寄ってきてもらって、買い物してもらっています。やはり交通機関の問題で、家からバス停に行くまでが遠い。それが一番の住民の意見です。そこを何とかしていただきたいと思います。

【井上委員】

市の主幹産業の1つである観光。この志摩の豊かな海と景色、山の景色と、おいしい海産物を皆さん目的に、観光にこられるわけですが、特にインバウンドの方が増えていて、海女小屋さとうみ庵はすごく業績が良くて、去年より多くなりました。海女さんにすごく皆さん喜んでいただいている、志摩市のキャラクターのしまこさんのぬいぐるみとか、小物もたくさん売っています。塩本委員も最初に言われましたが、やっぱり人手が足りていません。たくさん来てもらうにしても、受け入れ体制が整っていないというのが、現場の声です。皆さん、全部人手の話です。そうすると、人口減少をどうやって食い止めるかっていうのが一番じゃないかなと思っています。

また、大王や浜島も限界集落目前なので、地元の人口確保ももちろんのですけど、若い人たちにチャレンジしてもらうお店とか、そういうところができるないかなと思っています。その辺についても、みんなで考えてもらえたならなと思っています。

【田邊委員】

この資料に若者にとって魅力的な雇用とか産業とかってあるのですけど、私は三重県漁業士会の会長という役をやらしてもらっています。その中で、いろんな都道府県の会長さんが集まつたときに、あるところの会長さんと話をする機会がありました。その家も、自分で漁業をやりながら加工場をやっている。息子さんがそれを継いでくれたら、食っていけるぐらいの十分な売り上げがあるのですが、「そんなことはしたくない。僕は東京へ行く」と言わされました。その人もそれで困って考えたのが、九州から雇われ社長を呼んで、自分は会長職という役職に就いた。このまま軌道に乗って、うまく会社経営ができれば後を継がず、みたいなことも増えてきたみたいです。働く場所があっても、そんな状況です。私たちも、体験授業で、伊勢エビの漁業体験をやるのですが、小学生の子に「大きくなったら何になるのか。漁師するか」と言ったら、「嫌だ。Y o u T u b e r になる」と言われました。やはりインターネット、SNSの力が大きいのかなという気がしております。

それと、全然違う話ですが、安全安心のことです。最近、気になるのが外国人の国際免許の問題です。日本で車の免許を取っていないような方が簡単に免許をもらって、小学生の列に突っ込んだというようなニュースを見ると、市では難しいかもしれません、何とかできないのだろうかと気になっています。

【山川委員】

漁業者がどんどん減ってきていて、漁協の経営がだんだん成り立たないような状態になってきています。アオサノリでいうと、今年、経営体が150です。10年前は236だったのが、10年でこれだけ減っています。単価は、今年はものすごくよかつたのですか、生産量は減っています。個人個人の収入は、すごくいいのですが、後継者が現れない。これは毎年、値段がすごく乱高下するので、継ぐ人が現れないのかなと思います。あと、ゼロからスタートするには、お金が

かかりすぎるので、その辺もちょっと問題かなと思います。漁協の組合員になるハードルもあります。漁協としても、例えば、アオサノリに関しては、これから、加工施設は漁協で整備して海でだけ漁業者にやってもらうとか、人工種付けをやるとか、というようなことも考えています。どのようにしたら漁業者的人が増えるかということを、何かアドバイスしてほしいと思います。

【向井委員】

私どもは、農業の振興、それから結果としてのライフラインの確立というところメインに担っておりまます。その立場で、この計画の基本構想の構築に関わっていきたいと思っております。具体的には、今、テレビで一番話題になっているお米の問題があります。良質で安価なお米の提供について、一方で生産者にとって、また一方で消費者にとって、両方のことを含めて、ライフラインをしっかりと確立していく立場として、関わればなというように思っております。

【中井委員】

私は志摩ライオンズクラブから来たのですが、普段は接客業をしていまして、お客さんと会話する中で志摩市のことをお話したりもします。細やかな意見、困っていることなど、お年を召した方と話したりするので、こういう場でそういう意見も伝えられたらと思います。

個人的な話ですが、私の息子が10年ほど県外で働いていて、この4月に帰ってきました。志摩市が好きで、志摩市に戻りたいということで、何も決めずに帰ってきたのですが、その中で、アオサの養殖をやってみたいという気持ちがあるようです。漁業権はあるのですが、いろいろあって、スムーズに受け継げていない状況です。若者が漁業に就けるよう、漁協関係の方には、また相談に乗っていただきたいと思います。

【濱口委員】

若い方にアンケートをとられているようですが、その中で、例えば、私の甥はテレビを見ないし新聞も読まないけれども、ただ情報はすごく持っています。スマホ一つで、いろんな情報を集めてくるのです。先ほどの話にもありましたLINEの公式アカウントは、確かにすごく便利で、先日も「Jアラートが鳴ります」っていうのを教えてくれて、動搖しなくて済みました。本当にいろんな情報があって、便利だと思います。ただ、知らない人が結構多かったりするので、「LINEの公式アカウントの友達になってください」ということをもっと大々的にお知らせしていただけるといいと思います。あと志摩市のYouTubeのショート動画すごく面白いです。見たことのある方もいらっしゃると思いますが、YouTubeやSNSだと、志摩市内だけじゃなく市外県外にも全部に情報を流せます。なかなかいい手法だと思うので、頑張っていただけたらなと思います。

あと、志摩市職員のワークショップの中で「アジャイルマインド集団」とありましたけども、「アジャイル」というのは、私の中では、トライアンドエラーというか、その実行とレビューをコツコツとこう積んでいく手法というか作業だと思っています。間違えたら修正して、間違えたら修正していくという手法かなと思っているのですが、若い方がそういうマインドでいても、その上の上司、さらに上の上司が、「絶対間違えちゃダメ」というマインドでは意味がない。そこにも2人の市議会議員が傍聴にいらっしゃいますが、そういう方たちも含め、若い職員さんの活動を応援してあげてもらえるような雰囲気を作っていたらいいのかなと思います。職員の皆さんぜひ頑張っていただきたいと思います。

【塩本委員】

志摩市国際交流協会という立場で、先ほどもちょっとお伝えさせていただきましたが、「多文

化共生」、「誰も取り残さない」というキーワードは、日本人、外国人に関わらず、すべてこれが当たってますので、ぜひ連携していろんなできればいいなというように思います。

今回の資料は、全部に付箋を貼りました。そこから見られたのはこのアンケート通りで、基本理念、基本目標等のことについて、わかりやすかったです。その中で、手法としてあるのが、例えば、環境ということであれば、先ほどの委員の話にもありましたように、本当に地元民として危惧しているのですけれど、私は、2003年ノーベル賞をとった水研究をやっていた方と一緒に、アクアラボを創立しまして、ずっとモニタリングをやっているのですが、随分わかったことがあります。四日市大学さんともいろいろやっていたのですが、竹林の問題。結構、志摩も多いのですけど、これを竹紛にして使用するとお米も野菜も糖度が非常に高いものになったというのもありました。二番煎じでもいいから志摩市でもぜひそういったことをやってくれないかなという話をしていたのですが、その中で、ガンガゼの問題もありました。これを漁業者の方に駆除をしていただいているのですけど、その中で、実は悪い事例も報告されています。これは、全部調べまして、テレビ局の友人も巻き込んでそのデータももらいましたら、命の危機があると抱卵して増えてしまうという事例もありました。それで市役所で聞きましたら、「その事例は、今のところ志摩市では起こっていない」とのことでした。でも、その可能性があると大変になります。また、ガンガゼを医薬品として使えるのではないかという話があって、市役所にお伝えしたら、「うちは食べ物として活用していますので、それは結構です」と言われましたので、つくばの研究所に渡しました。こういった残念なこともあります。

教育については、例えば、先ほどのワークショップの結果では、素晴らしいことがたくさん出ていましたが、そこに地域の課題がかなり少なかった。それは直面していないからだと思います。高校生になると探究学習が始まるのですけども、これを中学校、小学校に降ろてきて、それで全国大会をやっているという成功事例があります。何かというと、地元の企業とか団体と接点ができるわけです。それを見る化することで、まちぐるみでの教育というものを推奨していくとして、成功事例がたくさんあります。何番煎じでもいいので、ぜひ、志摩市でもそれをやっていただいたらいいのではないかと思っています。

あと、アンケートから、移住したくなるような町が望まれているのは間違いないありませんので、先ほどもお話しましたように、インバウンドも含めて、志摩市の魅力づくりについて、何か皆さんとこういうように意見交換ができる情報もらえたたらという、分科会のようなものは難しいですかね。そういう普段の情報交換ができる場があればいいなと思いました。そう多くない審議会で意見を言って、またというのはなかなか難しいのかなと思いますので、そこら辺も加味していただいて、これから活かしていただければ嬉しいと思います。

【松尾委員】

このアンケートを拝見しましたが、年代関係なく、共通して問題は同じなのかなというよう思いました。会議中も、いろいろ交通や志摩LINEの話とか、市で企業誘致しているのは聞いていますけども、やっぱり今、志摩市にはいいものはあると思いますので、次に芽を出していくというか、引き継いで、僕らでこここのいいものを周知していくっていうのが大事なのかなと思いました。

私たちの志摩青年会議所というのは、20代、30代の年代で構成されています。先ほど、後継ぎの問題の話も出ていましたが、今の価値観というか、働き方への考え方とか、そういういたものも全く変わってきますので、そういうところにコミットし、今後、考えていけたらと思います。

【高岸委員】

3点お話をします。まず1つ目は、人口減少のことです。人をどうつなぎとめるかというようなことがあるかと思うのですけども、実際は、東京都以外は全部人口が減っているわけですから、それに抗うのは不可能であると思います。その前提で、それを少しでも、緩和することはできることなのかなと思っているところです。実際のところは、志摩市内の子どもたちが、市内の高校にあまり行かないっていうのが現実かと思います。伊勢志向が強くて、しかも私立の学費の補助があるということで、うんと敷居が下がっています。本当に行きやすくなって、公立私立の差がなくなってきてています。しかも私立の方が設備もいいし、いろいろ充実しているというようなことで、そこへ選ぶという志向が大きくなっています。それを進路指導で「志摩の学校へ行ったらどうか」と言うことは不可能だし、そんな無責任な進路指導はできないです。子どもが自分で選ぶところへ行くわけで、その時点で、学校ができるることは非常に少ないかなとは思います。学校にいる間に志摩市がこんな課題がいっぱいあるということでいろいろ行政の方に来ていただいて、「志摩市に残ってほしい」というメッセージたくさんいただくのですけれども、子どもたちの本音は、「大人は困るといつも子どもへ聞いてくる。」「自分たちの課題を全部大人は、子どもに投げかけてくる。」「大人がやってきたまちづくりの答えをなぜ子どもに向けるのか。」「未来のために、子どものためにと言って、そんな冠をつけられる。」そういう本音の部分があると考えています。子どもたちは、行政の方が来られたらそれなりにきちんとした対応しますので、素晴らしい答えを言うし、素晴らしい返事をします。ただ、「大人はこれを子どもに聞いてくるよね。」という本音があるかなと思います。子どもということでいろんな視点をいっぱいまとめていただいているのですけど、本音をどう引き出すのかが1つポイントになってくるかなと思います。

お話の2つ目です。子どもたち、特に中学生が学校に来る一番モチベーションは何だと思いますか。それは部活動です。昔も今も、変わらず部活動です。今、部活動の地域展開が進んでいて、土曜日、日曜日は、文科省が「もう学校ではやってはだめ。地域に任せなさい」という動きの中で、志摩市はその受け皿づくりについて、生涯学習スポーツ課を中心に教育長も一緒になって一生懸命作ってくれているところですけれども、まだまだ足りていない状況です。子どもたちにとっては、好きなスポーツや文化活動がしたいときに存分にできる、そんなまちになることが、今、本当に願っていることなのかなと思います。他の地域では、いろいろと進んでいるところがありまして、県内でも鈴鹿や四日市では、ものすごく進んでいます。どちらもどんどん地域に行ってています。県内でも南の方では、昭和とほとんど変わりがないような部活動を行っています。松阪市のように、「部活動は学校でします」と宣言したところもありますし、いろいろなのですけれども、子どもたちは、スポーツや文化活動をするのは大好きだっていうのが1つどこかに覚えておいていただければありがたいと思います。

3つ目です。3年前にもあったのですけども、今年、市内の心ある篤志家さんが「未来づくりで、あなたの夢を叶えることを何でもしてください」ということで、すべての中学校に100万ずつくれることになりました。3年前にもありますて、夢づくり事業ということで、普段できないような活動をいろいろさせてもらっています。1回目のときはコロナ禍だったので、いろんなところに行けないから、普通なら呼べないような人を呼んで、楽しいことをすればいい、普段できないことすればいい、ということでもあったのですけど、今はいろんなところに行けますので、いろんな学校がいろんな方法を考えています。その事を子どもたちと決めなさいということで、子どもたちに聞くと、いろんな意見がいっぱい出でてきます。具体的に「100万円で何が

したい」と言ったら、いっぱい意見が出てくる。子どもたちは、基本的にはそうかなと思いません。具体的に考える材料があつて、「この中でしたいことがあればできるよ」ということなら考えられますが、「何でもいいから未来のことを考えて」というのは非常に難しくて、それこそ、「大人でも考えられないのに、なぜ僕らに聞くの」ということになってしまふと思います。何か考える材料がある中だと、いろんな思いを連れてくるのではないかなと考えているところです。

【柘植委員】

伊勢志摩国立公園の魅力というのは、複雑な地形、緑の青々とした森と海、リアス海岸とか、そこに浮かんでいるいかだとか、そこで漁業をしている方々、海女さんとか、集落とか、なんといいますか、人と自然がすごく密接に関わった風景をすごく魅力として売っているというところがあります。なので、漁業者さんや農業者さんの話を聞いて、そこを残せるかどうかというのはすごく課題感を持っているところです。そのあたりをどのようにしたらいいのかなというのは、考えているんですけど、なかなか、難しいなっていうところがあります。皆さんと、何かできることをしていきたいという思いはあります。

【東委員】

私は、子育てサークルを10年前に志摩市で立ち上げました。10年前に子育てサークルに入ろうと思ったら、「ない」と言われました。先輩ママさんが子育てサークルを作っていたのですけど、お子さんの成長に合わせて、もう子どもが小さくないので、サークルは解散していて、その後、志摩の医療を考える会というのに発展していったという話を聞きました。志摩の医療を考える会の方とも、その後交流させていただいて、子どもが有事のときに、自分たちも同じように、赤ちゃんを抱えるお母さんたちを集めて、志摩の医療について説明をしてもらって、勉強させてもらいました。その時に、「現状、市内には産婦人科も小児科の入院病棟もない。でも、作って欲しいって言っても、県立志摩病院では難しい。伊勢の日赤であれば安心した医療体制で入院できる。」ということでした。それを受け、今から子どもを育てていくうえで、突然入院とかになったときに、こういう入院セットがあるといいよ、とかいうような話を聞いて、みんなで情報交換をしたっていうのがありました。

今、現状を産婦人科は伊勢に行っているんですけど、伊勢で検索すると、何軒かの個人の産科さんが出てきて、現状は皆さんそこに行かれて、個人の病院で出産するっていうのがあります。ただ、個人の病院が5件ぐらいあったものが、先生の高齢化で、今後、産める病院が1件しかなくなるという話を聞いています。道路とかが良くなつて、片道1時間以内で伊勢市には行けますが、個人の産科さんでも産めなくなつてしまふと、そこからもうちょっと遠い病院まで行かないと出産ができないというような状況が今後考えられるのかなと思います。こういった8年の行政計画の枠組みの中に「安心して子どもを産める」というようなサポートも入れていただきたいと思います。

【齋藤会長】

みなさんありがとうございました。それぞれの立場で課題や現状についてお話を聞いて、こうしたことを踏まえながら、次回のたたき台を作っていただけたらなというように思っております。それではお時間もありますので、事項書(5)その他について、事務局から何かありますでしょうか。

事項書2. 議事(5)その他

【事務局】

[ご意見の提出シートについて説明]

[事務連絡]

[次回の開催日について連絡]

【齋藤会長】

それでは、本日の第1回総合計画審議会をこれにて終えさせていただきます。

ありがとうございました。